



# 健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会普及課内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

## 第61回結核予防 全国大会開催

平成22年3月19日、ホテルニューオータニ鳥取、とりぎん文化会館において秋篠宮妃殿下のご臨席を仰ぎ、第61回結核予防全国大会が開催されました。また、同大会で秩父宮妃記念結核予防功労賞表彰式が行われ、本会からも事業功労賞を1名、1団体が授賞し、妃殿下より賞状が授与されました。



(秩父宮妃記念結核予防功労賞第13回表彰式で表彰状をお渡しになられる秋篠宮妃殿下)

## 第六十一回結核予防全国大会 秋篠宮妃殿下おことは

平成22年3月19日(鳥取県)

「第六十一回結核予防全国大会」が鳥取県において開催され、皆さまにお会いできましたことを、大変うれしく思います。

本日、永年にわたって大きな貢献をされ、「第十三回秩父宮妃記念結核予防功労賞」の表彰を受けられる皆さまに心よりお祝い申し上げます。これまでの受賞者をはじめ、結核の予防や対策に取り組んでこられた多くの方々のご努力に対し、深く敬意を表するとともに、今後ますます活躍されますことを願っております。

わが国の結核事情を見ますと、昭和二十六年に結核予防法が制定されて以来、官民が一体となった取り組みにより、結核患者数が大幅に減少するなど、状況は飛躍的に改善して参りました。かつて国民病と呼ばれた結核は、罹患率が減少し、わが国は低まん延国にむかっています。しかし、現在もなお、年間約二万五千人が新たに結核を発症し、合併症を伴う高齢者の増加、大都市への集中化、そして、わが国に在住する外国人患者が全体に占める割合の増加など、その実態は複雑化しております。また、二十歳代から三十歳代までの発症も十六％あり、若い世代における結核の罹患も軽視することはできません。

これらの現状をふまえ、今後も更に結核対策を丁寧に進めていくことが重要であり、あわせて、結核への関心が低下している中、広く人々に向けて、結核に関する情報を伝えていくことも必要となっております。

その一つの例として、昨年の夏、結核に対する正しい知識を伝え、人々の関心を高めるために制作されたA.C.広告があります。新聞、ポスターやテレビコマーシャルなど様々な媒体による広告を通じて、人々の結核に対する関心が徐々に高まっていることは、非常に喜ばしいことと思っております。

さて、昨年八月、私は日蘭通商四百周年記念行事の開会式典に出席するため、オランダへまいりました。その折に、日本の結核予防会と長年にわたり緊密な協力関係にある王立オランダ結核予防会(K.N.C.V.)を訪れ、専門家よりオランダ結核予防会の歴史と諸活動のお話を伺う機会に恵まれました。そして、国は異なりますが、同じ結核に関わる多様な問題や課題に対処してきた人々が、互いの豊かな経験、知識、組織や人材を活かして世界の結核をなくすよう、力を合わせて諸活動に取り組むことの大切さを改めて強く感じました。昨日の午後に開催されました研鑽集会のシンポジウムでは、「どうなる!?これからの結核医療」をテーマに、患者発見・治療・患者支援などの立場から四名の発表者の報告があり、医療機関、保健所、地域などが連携して患者を支えるネットワークの構築などの重要性が指摘されました。続いて、日本最古の結核症例に関する講演や、家族の一人が結核にかかったある家庭の出来事をわかりやすく物語にした人形劇がおこなわれました。シンポジウムに参加された方々にとって、これからの結核対策の方向性やあり方を考え、結核を深く理解するよい機会になったのではないのでしょうか。

本日、参加されている皆さまには、大会で得られました成果をそれぞれの地域における活動に十分に活かし、人々が健康で明るい生活を送ることが出来る社会になるよう、一層力を尽くされることを希望し、式典に寄せる言葉と致します。

## 財団法人結核予防会 青木正和会長が逝去されました

5月29日（土）午後2時8分、  
財団法人結核予防会 青木正和会長が  
くも膜下出血のため逝去されました。  
享年82歳でした。

青木正和会長は、東京大学医学部卒業後、結核予防会結核研究所の研究部長、所長、結核予防会理事長を経て、平成12年より会長職にありました。この間、結核病学会会長、政府の公衆衛生審議会・結核部会部会長などを歴任し、『結核の歴史』ほか著書も多数残し、平成6年には保健文化賞を受賞されるなど数々のご功績を残されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。



在りし日の青木正和会長

## 青木正和先生を偲んで

社団法人結核予防婦人団体連絡協議会  
会長 中畔 都舎子

青木正和先生の訃報を頂いた時、一瞬自分の耳を疑ってしまいました。いまだに信じられません。私が先生と最後に御目にかかったのは3月25日結核予防会の理事・評議委員会です。お元気に議長を務められたお姿が今でも鮮明に脳に残っております、わずか2ヶ月前のことですから。

青木先生と結核予防婦人会の関わりは本当に長く、そして深いものがあります。私達に「結核」についてわかりやすく、楽しく興味を持たせていただく工夫を常になされて、先生のご講演を全国各地で待ち望んでお聞きしたものです。

今年も幾つかのブロック幹部研修にご講演のお約束がされていたと聞いております。先

生のご講演は著書「結核を病んだ人たち」にもありますが、結核の恐ろしさ、志半ばにして結核で命を落とした著名な方々の無念な思いなどが熱く伝わり、感動と学びの連続でした。

結核予防婦人会のスタディツアーでネパール、ミャンマーに引率くださいました。100名以上の婦人会員が学ばせていただきました。複十字シール募金が開発途上国でどのように役に立っているか、実際に見て、聞いて感動していただくとう青木先生の発案で開始されたのです。そしていつも助言いただきました「勉強は楽しく、好奇心が大切だよ」と。スタディツアーには楽しく学ぶ企画が継続されております。

婦人会の活性化についてはいつも心にかけていただいております。「チャレンジ」精神で時代にあった活動を改善改革しながら青木先生の志を忘れないように精進してまいります。

青木先生のご冥福をお祈り申し上げます。

## 第61回結核予防全国大会を終えて

鳥取県健康を守る  
婦人の会 顧問

平井 りえ



三寒四温の中、それまでとは違って変わって暖かな春風吹く3月18日、19日。結核予防会総裁秋篠宮妃殿下紀子様をお迎えし、第61回結核予防全国大会ストップ結核鳥取大会が鳥取県立とりぎん文化会館にて開催されました。

まずは、因幡の傘踊りを堪能して頂き、これからの結核予防をテーマにシンポジウムが行われました。結核は患者数の劇的な減少により過去の病とされがちですが、まだまだ蔓延しており発見そのものが難しくなっています。健康診断の在り方自体を再考する必要があるとのこと。高齢者等ハイリスク者、二次感染を起ししやすい職業に就労しているインジャー層等への対応など、細かい配慮が必須となってきています。治療現場では患者減少で医師の結核診察機会も減少しているため教育

が必要であるということ、また基礎疾患、合併症を持つ高齢者が多いため総合病院での診療が不可欠であることなど、現場の実情を知ることができました。患者のため地域一丸となり医療機関、保健所等のソーシャルキャピタルを整えなければと、愛媛大学櫃本真津先生からお話がありました。

鳥取大学の井上貴央医学部長からは、日本最古の結核症状カリエスを示す背骨発掘について紹介がありました。鳥取市内の青谷上寺地遺跡での発見は、弥生時代に大陸から伝えられたと思われる古くからの結核の歴史を認識させるものです。本大会が鳥取で開催されましたことにも、何かしら御縁があったかのようにも思われました。「卯の花をめがけてきたか時鳥」の作者で結核患者でもあった正岡子規のお話も興味深く、当時の結核患者の苦しみが伝わってまいりました。

次に健康を守る婦人の会大山町中山支部の皆様による人形劇「鈴木家結核顛末記」が披露され、お国言葉の台詞に会場内は盛り上がり楽

しく結核について学ぶことができました。

引き続き会場を変え、全国結核予防婦人団体連絡協議会懇談会が開かれ、妃殿下のご臨席を仰ぎ、全国からお集まりの会員の皆様とも交流を持つことができ、大変有意義で楽しい会になりました。京都の中畔会長ともお近づきになることができました。

二日目の式典では、妃殿下より「人々が健康で明るい生活を送ることができる社会になるよう、力を尽くされることを希望します」とのお言葉を賜りました。式典に当たって、当鳥取県健康を守る婦人の会も事業功労賞を拝受いたし、私自らも決意を新たにいたしました。これを機に、当会会員も健康で明るい社会実現のために邁進してまいります。

本大会を無事成功裏に終えることができませんでした。全国からお越し頂いた皆様、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

### 宣言文

日本の結核罹患率は10万対20を切り、低まん延国化に向けて歩みを進めている。しかしながら、我が国の結核を取り巻く状況は、合併症を伴う高齢患者の増加、大都市への集中化、外国人の患者割合の増加など、複雑化し質的な変化を呈している。

国内においては、科学的で実効性のある結核対策の充実に努めるとともに、地域特性をふまえた患者中心の結核医療提供体制の確立及び結核医療に対する診療報酬の適正化に引き続き取り組む。世界に向けては、ストップ結核ジャパンアクションプランを確実に実施し、結核の制圧へ向け総力を挙げて取り組む。

さらに、特定健診・特定保健指導の推進、禁煙運動や受動喫煙防止対策の推進による肺がん、慢性閉塞性肺疾患（COPD）をはじめとする呼吸器疾患対策をすすめ、国民に対する正しい知識の普及啓発に努め、世界の人々が健康で明るい生涯を送れるよう組織一丸となって努力する。

以上宣言する。



### 秩父宮妃記念 結核予防功労賞 第13回受賞者



#### 事業功労賞 (団体)

鳥取県健康を守る  
婦人の会

会長 井勝 道子  
団体職員  
鳥取県鳥取市



第61回結核予防全国大会が3月18日・19日に「ホテルニューオータニ鳥取」「とりぎん文化会館」を会場として開催されました。シンポジウム「どうなるこれからの結核医療」と鳥取県健康を守る婦人の会会員による人形劇「鈴木家結核顛末記」等研鑽集会・式典が行われ、全国結核予防婦人団体連絡協議会の皆様にご参集いただき、秋篠宮妃殿下のご臨席のもと、和やかに懇談会が出来ましたこと、心より感謝申し上げます。

また、この度、秩父宮妃記念結核予防事業功労賞の榮譽を賜り厚く感謝申し上げます。私達、婦人の会会員は日頃より「結核や肺がんをなくそう」を合言葉に複十字シール運動・禁煙運動・生活習慣病

予防を始め、子どもたちの食育・正しい食習慣の普及に努め、生活の質の向上を目指した健康づくり運動を実施し、今後とも会員同士が手をつなぎ、協力し合って、結核の無い健康な社会を築いて行きたいと心に誓いました。



#### 事業功労賞 (個人)

北海道健康をまもる  
地域団体連合会

高橋 寿枝  
団体職員  
北海道北広島市



平成22年3月19日、第61回結核予防全国大会（鳥取市）において、総裁秋篠宮妃殿下より、表彰状を拝受いたしました。このことは結核制圧、予防活動を実践して参りました地域団体の皆様との協力により頂いた榮譽でございます。

前日、総裁妃殿下との記念撮影の説明を受けるため別室に全員が集まりましたが、各分野でご活躍の方々の威厳に感銘し、緊張いたしました。

撮影の場では、にっこり微笑まれた妃殿下のお出ましに会場の雰囲気も和らぎ、緊張がほぐれました。

夜のレセプションではお話の機会

を頂き、北海道には、秩父宮妃殿下が昭和52年より大雪講習会の開催5年毎に3回のご来道、ご臨席を仰ぎ、会員と親しく交流されたことなどお話ししました。

昭和41年『札幌市健康をまもる婦人のつどい』が設立、受診勧奨、シール街頭募金実施、昭和52年、秩父宮妃殿下ご臨席のもと、『北海道健康をまもる婦人団体連合会』が結成され全道的活動が展開されました。

先達としての、柴田サヨ初代会長、橋本智子現顧問が、広大な北海道を4ブロックに分け、組織加入勧奨等を推進してきましたが、時代の変化、疾病構造の変化、少子高齢化に伴い、市町村合併による自治体の事情等の問題もあります。形態の違う組織の中で暗中模索しながら、忘れてはならないしぶとい結核、がん予防、生活習慣病予防推進に、地域団体の協力を得ながら、新しい仕組みの中での組織活性化が得られるように、努力、協力して参りたいと思うものです。

道健婦連（旧名称）5年毎の秩父宮妃殿下ご来道の折は、事務局の一員として協力させて頂きました事を思い、この度の受賞は、殊の外の感激でございました。ありがとうございました。

### \*\*\*\*\* 厚生労働大臣へ要請 \*\*\*\*\*

5月20日（木）、「女子生徒に子宮頸がん予防ワクチン接種公費負担を要望します」の要望書を提出するために社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会は、中畔都舎子会長以下3名で厚生労働省長妻昭厚生労働大臣を訪問した。

厚生労働省側は、福島靖正結核感染症課長と林昇甫がん対策推進室がん医療専門官が厚生労働大臣にかわって対応された。

婦人会は、2月に、結核予防会総裁秋篠宮妃殿下ご臨席の下行われた、幹部研修会で、子宮頸がん予防ワクチン接種の重要性と子宮頸がん検診について多くのことを学んだ。そこで全国の代表者である参加者120名全員が最も優先しなくてはならない問題として、少子化時代にとって重要な対策と考え、全

国の婦人会会員100万人の声をおとどけるために、今回の訪問となった。

厚生労働省でも、ワクチンのことは、とても重要な対策として現在取り組んでいるというお話をいただいたので、一日も早い『公費負担での接種』実現を期待したい。



福島靖正 結核感染症課長      中畔都舎子 会長

## 婦人会活動を通して 深まった認識・啓発活動 の重要性について



愛知県  
結核予防婦人会  
会長 平松 サナエ

私が結核予防  
婦人会の活動に携

わってから、20余年になりますが、地区の役員の時と県の代表になってからではその認識は大きく違って参りました。それは、結核は過去の病気ではなく、現在も高齢者や特に経済的弱者を中心に感染が広がりつつある病気である事を理解できたことです。

そして結核予防活動の一環として毎年8月に知事表敬訪問を行い、啓発をしております。21年度は4月に赴任されたばかりの副知事さんを訪問し、結核予防婦人会の活動と結核の現状をお話し、結核予防活動の大切さをお伝えして参りました。

また、毎年全国結核予防婦人会と結核予防会が開催する中央講習会には次期リーダーを順次参加させ、意識向上に努めています。講習会を終えた皆さんの感想は、自分達には関係の無い病気と思っていた結核が、日本は「中まん延国」であり、国内最大級の感染症である現実に

驚き、啓発の重要性を痛感して来ております。また、受講者による発表の機会をつくり、理事の皆さんへの啓発を行っております。

複十字シール募金活動は県下19郡市に毎年お願いしていますが、シール募金が発展途上国の人々の結核患者を助けている事や、その重要性を理解して頂いた上で、たくさんのシール募金にご協力をお願いしたいと思っております。

今年東海北陸地区結核予防婦人団体幹部研修会が愛知県で開催されますので、多くの方が参加できます。研修会では結核への知識が得られ、他県の方との交流で情報交換をし、地域に持ち帰り予防対策の必要性を伝えることが大切だと思います。

結核にかからない予防としては、まず健康である事、ストレスを貯めない事であると聞いています。私も現在は健康な方だと思っておりますが、今の立場で多忙な毎日を過ごしております。ある講演会で聞いた、ストレス解消法が気に入り実行しています。それは休日は脳を空にするよう努める事です。

いつも、考える事が山ほどありますが、週末には疲れもピークとなり、なかなか良い考えがまとまらなさと実感しているからです。

皆様も、ためしてみられては如何でしょうか。

## わが婦人会の 活動について

社団法人  
大阪エィフボラン  
ターネットワーク  
会長 上ノ山 幸子



私たちの団体

は、昭和29年に女性の手で「健康で明るく住みよい地域社会の実現」をめざして結成したボランティア団体で、主に地域保健の実践活動を行っています。

従って他府県の結核予防婦人会とは少し違った団体です。

さて、私たちの結核予防関係の活動についてご紹介いたしますと、先ず8月には全国一斉の複十字シール運動に合わせて、予防会大阪府支部長とともに、知事への表敬訪問から始まります。これを機に府下19支部において市町の行政機関と連携して開催する「健康フェスティバル」等の場を活用して会員1人1組の募金運動を展開します。

次に、9月の結核予防週間には予防会大阪支部と共催で、大阪から結核を追放する女性の集いと銘打って「結核予防推進大会」を開催しています。この大会では、結核に関する講演（講話）とともに「中央講習会」の受講者が出席者に「伝達講習」を必ず行います。このほか府下保健所や市町と連携して結核予防のための「街頭啓発キャンペーン」や結核予防検診の受診啓発も実施しています。

20年度には予防会の指導・助言を得て「COPDアンケート」を実施し、1万9千人から回収しました。中には精密検査受検後、治療に繋がった方もおられました。

結核関連以外の健康関連事業としては、21年度には「新型インフルエンザ」に関する正しい情報が伝わり難い独居老人等を対象に、「予防啓発チラシ」を作製のうえ、2万7千枚の「不織布マスク」を購入し、



H21年8月に行われた知事表敬訪問



対象者に配布して罹患予防と受診方法の啓発を行いました。このほか各支部の実情に応じ、「特定健診」「がん検診」「乳幼児検診」等の受診啓発や検診補助なども行っています。

運営補助金カット等で、厳しい財政状況ですが、今後とも「大阪のおばちゃんパワー」を、存分に発揮して活動して参ります。



H21年8月に行われた知事表敬訪問

結核予防について思うこと



山梨県愛育連合会  
会長 鈴木 孝子

「他人ごととは思えないね。結核は現代の病気だ。」

このコマーシャルを知ったのは、関東甲信越の幹部研修会の時でした。

私は、乳幼児から老人までの地域住民すべてに係わる健康や福祉の地域組織活動をしています。結核に対してこれ程のインパクトある呼びかけに驚きを感じ、改めて結核について考えてみようという機会になりました。

それに、30年前の我が家の出来事を思い出しました。義父の老人性

結核感染により、当時小学校1年生の長男への感染がわかったのです。それから長男は、校外活動、体育、プール等が制限された生活になり、元気で人一倍活発な彼は、1年間つらい思いをしたことをずっと後になって打ち明けたのです。でもその1年間の休養が効を成し、その後は健康そのもので、今では中学校教員として、また2児の父親としてがんばっています。

先日、この長男の子どもが、「おばあちゃん、あのシール頂戴」と、複十字シールを要求してきました。5才の女の子ですが、お手紙や文章をよく書き、必ずお気に入りの複十字シールを使ってくれている。こんなところで結核予防につながりがあったとは・・・。

私達の活動の中では、この複十字

シール運動を直接していませんが、愛育会活動の目的が、住民の健康に係わり、声かけや見守りや訪問を主に隣保組単位での活動ですので、今までも複十字シールを使わせてもらっていました。

これからは、活動の中で積極的に複十字シールを使い、自分の健康、家族の健康、地域住民の健康を考え、いつでも楽しく誰でもできる活動を目指していきたいと思います。

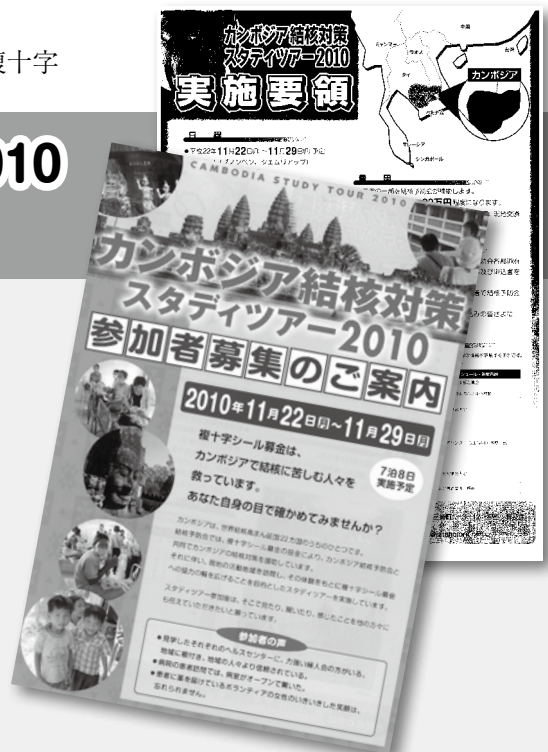
研修会に出席させて頂いて以来、結核や肺がん、その他胸部に関する疾患について、知識や情報を得て、この運動を広げよう！ 今からでもおそくない！ これからだ！ と思うこの頃です。

カンボジア結核対策スタディツアー2010  
参加者募集

平成6年から始まり、毎年行われている、「結核対策スタディツアー」も、今年で第14回を迎えました。

昨年は、残念ながら、中止になってしまいましたが、今年は是非実施したいと思っておりますので、ふるってご参加ください。

なお、詳細につきましては、すでに、各支部、各婦人会宛に募集案内を郵送してありますので、是非ご参照ください。



## 全国結核予防婦人団体連絡協議会平成22年度収支予算書(1月1日～12月31日)

## 1. 収 入

(単位:円)

科 目	21年度予算額(A)	22年度予算額(B)	対比増△減	備 考
会 費 収 入	5,010,000	5,090,000	80,000	
加盟婦人団体会費収入	3,760,000	3,840,000	80,000	@80,000×48団体=3,840,000
賛助金収入	1,250,000	1,250,000	0	
委 託 金 収 入	0	0	0	
補助金収入	3,500,000	3,400,000	△ 100,000	結核予防会 3,400,000
雑 収 入	34,000	20,000	△ 14,000	預金利息、バッジ代
借 入 金 収 入	0	0	0	
預 金 取 崩 収 入	0	0	0	
過年度損益修正益	0	0	0	
前期繰越収支差額	5,965,044	16,164,539	10,199,495	
合 計	14,509,044	24,674,539	10,165,495	

## 2. 支 出

科 目	21年度予算額(A)	22年度予算額(B)	対比増△減	備 考
給 与 費	1,200,000	1,200,000	0	
職 員 給 与	1,200,000	1,200,000	0	月額100,000×12カ月
経 費	2,029,104	1,460,584	△ 568,520	
通信運搬費	160,000	250,000	90,000	郵送料
旅費交通費	1,407,000	850,000	△ 557,000	理事会旅費・監査旅費・地区別研修会講師旅費・中央講習会会長旅費
会議費	54,020	55,000	980	理事会雑費・監査雑費
消耗品費	0	15,000	15,000	事務消耗品
管理費	70,584	70,584	0	光熱水道料等 @5,882×12カ月
支払利息	0	0	0	
雑 費	337,500	220,000	△ 117,500	会計士監査・交際費(香典、弔電)・振込手数料・健康日本21会費
事 業 費	9,252,379	4,900,000	△ 4,352,379	
研修会費	4,160,000	2,600,000	△ 1,560,000	地区別研修会負担金・中央講習会
大会費	233,700	200,000	△ 33,700	負担金 会長旅費・宿泊
講師派遣費	0	0	0	
思想普及啓蒙費	4,658,479	2,000,000	△ 2,658,479	健康の輪(印刷・発送・原稿料・編集会議)・普及啓蒙費
過年度損益修正損	0	0	0	
国際協力費	100,200	100,000	△ 200	カンボジアへ寄付(1,000\$)
協 賛 費	100,000	0	△ 100,000	
予 備 費	0	50,000	50,000	
基金繰入金	0	0	0	
STBJ事業積立	1,000,000	0	△ 1,000,000	
創立40周年事業積立	1,000,000	1,000,000	0	
次期繰越収支差額	27,561	16,063,955	16,036,394	
合 計	14,509,044	24,674,539	10,165,495	

## 平成22年度事業計画(平成22年1月1日～12月31日)

2月18日～19日	中央講習会/こまばエミナース(実施済)
3月1日～8日	女性の健康週間(実施済)
3月2日	会計監査/結核予防会(実施済)
3月15日	教育広報誌『健康の輪No.98号』発行(実施済)
3月18日～19日	第61回結核予防全国大会の後援と第1回理事会、定時総会の開催/鳥取県(実施済)
7月15日	教育広報誌『健康の輪No.99号』発行
7月16日～17日	北海道地区幹部研修会(家族の健康を守る講習会)実施
8月1日	全国一斉複十字シール運動開始厚生労働大臣ならびに都道府県知事表敬訪問 複十字シール運動の実施にあたり後援団体として協力
9月24日～30日	結核予防週間 ・主催団体として結核への関心を高める各種の普及啓蒙活動を実施 ・全国一斉複十字シール運動キャンペーン
10月18日～19日	近畿地区幹部研修会(奈良県)
10月21日～22日	東海北陸地区幹部研修会(愛知県)
11月15日	教育広報誌『健康の輪No.100号』発行
11月17日～18日	九州地区幹部研修会(熊本県)
11月18日～19日	東北地区幹部研修会(福島県)
11月22日～29日	カンボジア結核対策スタディツアーへの会員の参加(予定) ・カンボジア結核対策プロジェクトへの資金援助
日程未定	第2回理事会の開催

### 平成21年度複十字シール募金 結果報告

平成21年度の複十字シール募金総額は、約3億3,330万円となりました。結核予防婦人会の皆さまには、結核予防週間における街頭キャンペーンなど様々な場を通じてご協力をいただきありがとうございました。

経費を除いた益金の使いみちは、表1のとおりです。結核予防のための教育資材の作成、国際協力関連と調査研究の比率が増加し、非常に好ましい傾向です。また、8月から本部ホームページからオンライン

募金ができるようになります。家のパソコンから、お持ちのクレジットカード決済で複十字シール募金ができます。いままでのように、電話を掛ける手間が要りません。近いうちに、コンビニからも複十字シール募金ができるようにしたいと考えております。ご期待ください。

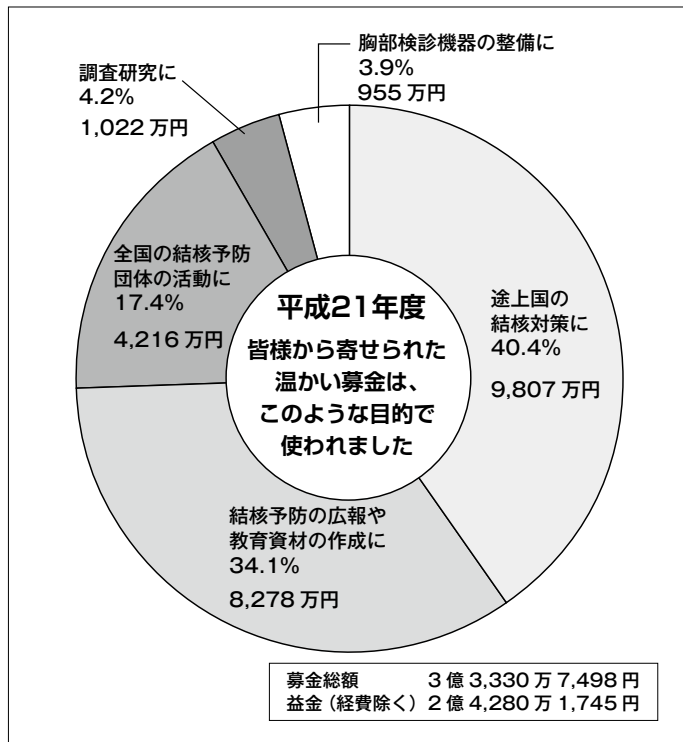
さて、今年の複十字シールは、「子ども」がモチーフです。色彩が鮮やかで、緻密なシールの世界が楽しめる安野光雅先生の力作です。今年のシールは、完成しておりますので、近々皆様のお手元に届けます。募金の媒体として国民の間に広まることを願ってやみません。

### 全国婦人会別結果

婦人会組織別に募金額を見ますと、多いところから①静岡県1,491万円・②秋田県1,198万円・③熊本県807万円・④沖縄県444万円・⑤鹿児島県423万円となっています。婦人会活動による募金は約8,961万円となりました。結核予防婦人団体連絡協議会が、結核予防の普及啓発活動において、大きな役割を果たしてきたことは言うまでもありません。次の目標は、結核の低まん延国になることです。

今後とも、ご支援をよろしく願います。

図1



## イラスト・カット募集

平成22年11月号(健康の輪No.100)に掲載するイラスト・カットを募集致します。

花・動物・その他、何でも結構です。

締切は、平成22年9月20日(当会必着)です。

全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局宛

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12

TEL: 03-3292-9288

